

大阪学院大学 大阪学院短期大学

Osaka Gakuin FD Journal

渺望

びようぼう

vol. **5**

May. 2010

「教える」から「学ぶ」への転換 教育改革への取り組み

—「OGU-Folio」の取り組みとその狙い—

実学教育による「人材」の育成に向けて
新しい大学教育に求められるもの

教育開発支援センター

第1回 FSD 講演会

特別企画① SD(FD) 講演会

FSDワークショップ



「渺望Vol.5」では、本学が取り組む大学の教育改革の今後の指針ともなる「新しい学びのスタイル」について検証と提案を行います。

それは、本学が建学以来追究してきた学部・学科での特色ある実学教育と、時代や社会の要請に応じ、我々が新たな課題と据える人間教育の融合でもあります。

追究するものは「学びによる成長」。それを具現化するための「新しい学び」の狙いや意義について、具体策として本学が提唱するポートフォリオ「OGU-Folio」の仕組みや運用に関する最新の情報と共にご紹介します。

「教える」から「学ぶ」への転換 教育改革への取り組み

「OGU-Folio」の取り組みとその狙い

実学教育による「人材」の育成に向けて 新しい大学教育に求められるもの

一般論として、大学が社会を動かす人材を輩出する機関であるという前提から、「社会が変われば、求められる大学教育も変わる」ということに着目しなくてはなりません。かつて、大学と言えは限られた人間、より深く知識を身につける意欲を持った人間が高度な専門知識を習得

するための最高学府でした。言い換えれば「大学で高度な専門知識を身につければ社会に通用し、社会を牽引し得る人材になる」という前提があったのです。

しかし、今日の社会では、専門知識は加速度的に高度化・細分化、あるいは先鋭化され、「これだけ身につけていれば

大丈夫」という確たるものが見えない不透明な時代に突入していると言えます。

一方で、世界的な「知のスタンダード」のハードルが日に日に高くなる傾向によって、かつて、高いレベルにあると評された日本の高等教育が相対的にそのポジションを下げているという現状もあります。

このような状況を踏まえて、文部科学省は『学士課程の構築に向けて』の中で、これまでの専門性を重視した学部教育か

ら、知識・技能だけでなくコミュニケーションや協調性、リーダーシップなど汎用的な人間力を備えた人材の育成を重視した「学士力」の獲得という内容を掲げ、今後の我が国を支える理想的人材像を提示しました。

また、経済産業省も大学教育における人材育成への要請の中で提示した『「社会人基礎力」とは』でも、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力が三つの能力として挙げられています。

これらに共通することは、今後ますます不透明性を高める社会が直面する未知の課題に対して既成の専門知識のみを用いて立ち向かうことは困難であり、多面

的で柔軟な視点を捉え、多分野の知識を集結して道を切り拓く姿勢こそが重要であるという観点です。

ひとことで言えば「問題解決に必要な知識」そのものではなく「問題解決に取り組める力」の獲得こそが大学教育に今後求められるポイントであると捉えてもよいでしょう。

我々が大学の教育改革を考える上でも、こうした指針と軌道を同じくして、「教える」教育から、学生が何をどのように「学ぶ」かを問う教育へ、そして「何を知っているか」から「どのように考えられるか」を重視した教育へと視点の転換が必要であると考えます。

学生が自らの学びを自己評価することで「学ぶ意欲」を高める効果を狙うというものです。

大学においても、四年間の学びを通じてどのような成長を遂げたかを実感する意味で、このポートフォリオの意義は大きいと言えるでしょう。加えて、大学ではそれまでの教育課程と異なり、自ら目的を持って受験する大学や学部・学科を選び、履修する科目の登録を行うという自主的・能動的な計画（PLAN）のもとで学びがスタートします。そこに存在する「このスキルを身につけるために大学に行くんだ」という思いを最初の成果

①文部科学省「学士力」

趣旨 分野横断的に我が国の学士課程教育が共通して目指す「学習成果」についての参考指針として示したもの。個々の大学における学位授与の方針等の作成や分野別の質保証の枠組み作りを促進・支援することを目的とする。

1.知識・理解

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2.汎用的技能

- (1) コミュニケーション・スキル (2) 数量的スキル
- (3) 情報リテラシー (4) 論理的思考力
- (5) 問題解決力

3.態度・志向性

- (1) 自己管理能力 (2) チームワーク、リーダーシップ
- (3) 倫理観 (4) 市民としての社会的責任
- (5) 生涯学習力

4.統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

※平成20年3月25日 中教審『学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）』より抜粋

OGUの教育改革 ポートフォリオの活用を柱として

教員が学生に教えるというスタイルから、学生が主体的に学ぶというスタイルへの転換を推進し、「OGU学士力」を具現化するために有効なツールとして取り組みの柱に据えているものが、本学独自のポートフォリオ「OGU-Folio」です。

ポートフォリオとは文字通り書類ケースや鞆を指すものであり、初等・中等教育の総合学習の科目ではクリアブックに自らの成果物や作品などの「学びの活動」を貯め込んで、それらを「振り返り」「気づき」を得るために活用しています。導入の狙いは、旧来の学校教育では教員が一方的に教え、評価していたのに対し、

②経済産業省「社会人基礎力」

「社会人基礎力」
(3つの能力/
12の要素)

前に踏み出す力(アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

チームで働く力

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

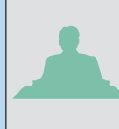
相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

考え抜く力(シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

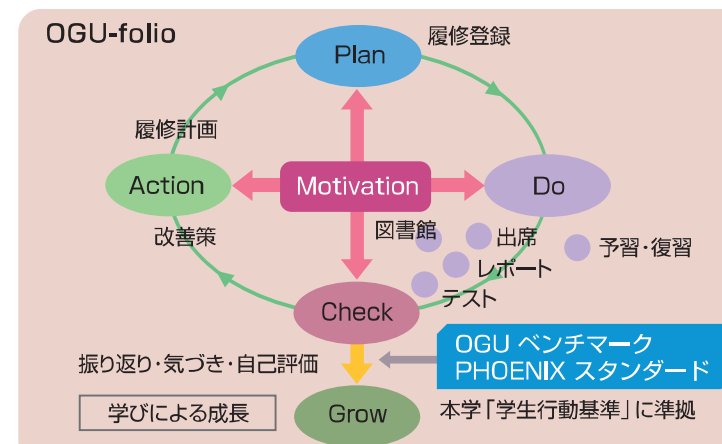
※経済産業省「社会人基礎力」とは」より抜粋



シヤルスキル」「ライフスキル」に分類され、それぞれテストや課題の評点とは異なる評価軸を学生に提示します。

この中で、本学の今後の教育方針を特徴づける項目として、いくつか強調すべき点があります。まずアカデミックスキルの「専門性」の項目。この中身が、単に高度な専門性を身につけるだけでなく「専門性の獲得を通して、複眼的なものの見方ができる」となっている点です。これは経済産業省の『「社会人基礎力」とは』で挙げられた「考え抜く力」に呼応する部分と言ってよいでしょう。さらに、ソーシャルスキルの「傾聴力」、ライフスキルの「共感力」は、いずれも「コミュニケーションや協調性」「チームで働く力」にあたります。

そして、残る「リーダーシップ」や「前に踏み出す力」に相当するのが、「OGU-Folio」や「OGUベンチマーク」導入によって期待される学生の「学ぶ意欲の向上」です。各科目の評点と自らの自己評価を、教科担当教員でなく四年間一貫してゼミの担当教員に提出するという特徴的な「OGU-Folio」の狙いはそのモチベーションアップを図るためにあるのです。学生が提出する自己評価に対してゼミ担当教員はリフレクション（助言）の機能を担うのですが、ここで言う助言とは、軌道修正や叱責でなく「学生の自己評価を評価してあげる」と表現した方が近いかもしれません。もっと簡単な言葉を使えば「励まし、勇気付ける」と言ってもよいでしょう。



- 学びのPDCAサイクル**
1. 獲得しようとするスキルの明確化。(Plan)
 2. 学習活動(行動)の蓄積。(Do)
 3. ベンチマークに照らした学びの自己評価。(Check)
 4. 自己評価に基づき、新たに獲得しようとするスキルを検討。(Action)

人は誰もが自らの考えを第三者に知ってもらおう・認めてもらうことで自信を持ち、より迷い無くそれに沿って進むことができます。自己評価は主体的・主観的に学生自身が下すものですが「自分はこれだけ成長できた」と言いつばなしで終わるのと、それを誰かに聞いてもらい「よし、よくやった。その調子」と認めてもらうのとはモチベーションに差が生じることは想像に易いでしょう。

その意味ではこのたびの教育改革の効用はゼミ担当教員がその役割をいかに理解し、正しくファシリテーターの機能を果たせるかに負う部分が大きいと言えます。

改革の筋道や仕組みを作るのは大学の役目ですが、それを動かし活用するのは教員や学生など、学びに直接関わる人々です。そのような観点から「OGU-Folio」導入に際し、その狙いと意義を、教務課、キャリアセンター、学生課の職員、そしてゼミ担当教員すべてが理解・共有するためのワークショップを3月に開催しました。そこでは、教職員の学びに対する考え方の共通認識や今後の課題について熱心な討議がなされました。ここに至って本学が長い時間をかけて立案してきた教育改革のひとつの柱が、いよいよ助走を終え本格稼働のスタートラインに立ちます。

その成果はすぐに目に見える性質のものではありませんし、運用に際しては導入してから引き続き改善していく余地もまだまだ残されているとは思いますが、

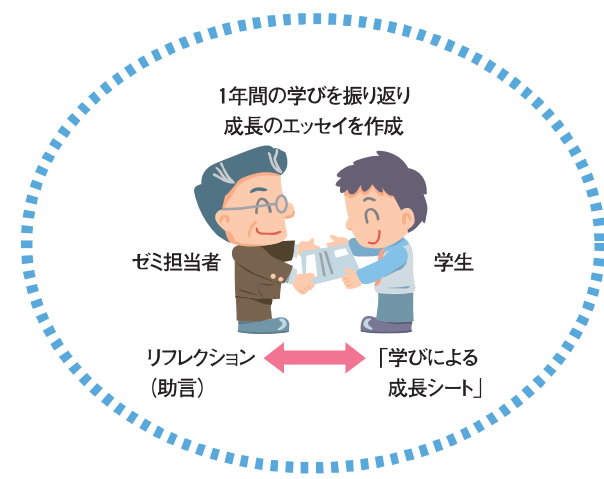
ここで課題になるのが、自己評価が独りよがりにならないように、大学が学生に客観的な「評価のものさし」や「振り返りの観点」を提示することです。それは先述の文部科学省の「学士力」や経済産業省の「社会人基礎力」ともリンクし

OGUのベンチマークが描く新時代の教育目標 モチベーションを刺激し人間力を磨く

入学に際しての思いを「大学でどう成長するか」というテーマのエッセイにまとめ提出することを皮切りに、「OGU-Folio」では各年次の始まり（前年次の終了時）に、それぞれ一年の学びの総括・次年度の学びの目標をまとめたエッセイをゼミの担当教員に提出します。

もちろんこれらと並行して、通常の課題やレポートなどの成果物をデジタル化したものを各自の共有ホルダー（ネットワーク上に与えられた500M）に蓄積します。そして、学期終了時に「学びの成長シート」に、学びの自己評価をまとめ、ゼミ担当教員に提出します。ここで重要なことは、それぞれの成果物に、必ず学生自身による「自己評価」を添えるという点です。科目担当教員による評点ではなく、自分自身がその課題にどのように取り組み、どのような努力をし、それに

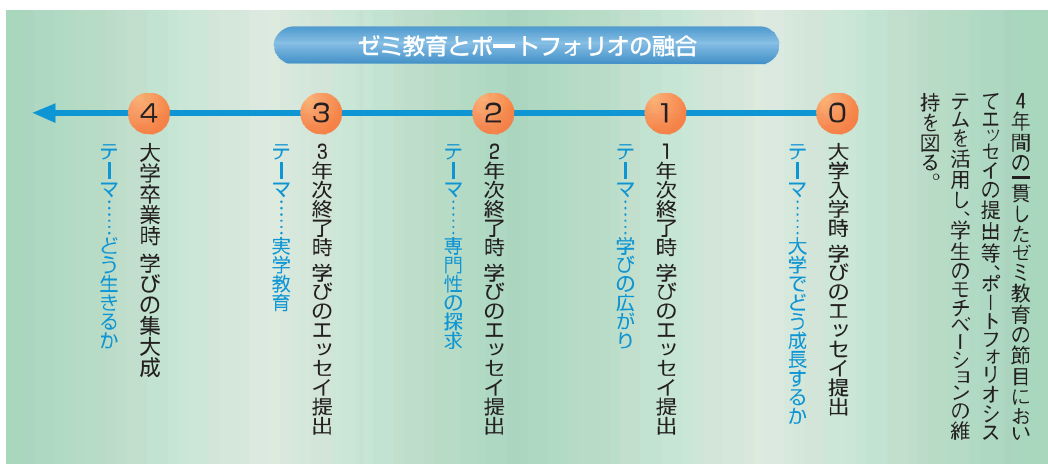
よって何が獲得できたかなどを自分の考えで評価する。そのことで学生が大学で何を学んだかを振り返り（CHECK）、学びの意欲向上に繋げ、学習の改善策立案や次年度の履修計画に役立てる（ACTION）ことこそがポートフォリオ活用の最大の狙いです。



た本学の教育目標そのものであり、同時に、それを満たせば本学の学士課程修了者としての「品質」を対外的に保証する基準でもありません。

「OGUベンチマーク」と名付けられたその基準は、「アカデミックスキル」「ソ

しかし、今後は学生や教員など、改革の主人公である人々からの確かな手応えをベースに教育改革の動きが加速していくはずですが。



OGU ベンチマーク

① アカデミックスキル	計画性・実行力	物事を計画的・自立的に遂行できる
	問題発見能力	情報収集・分析ができ、課題を指摘できる
	問題解決能力	論理的思考ができ、問題を克服できる
	専門性	専門性を獲得し、複眼的なものの見方ができる
② ソーシャルスキル	傾聴性	相手の意見や考えを素直に聞き入れる
	協調性	チームワークが円滑にできる
	コミュニケーション能力	相互に意思のやり取りができる
	ソーシャルマナー	正しい規範意識を持って行動ができる
③ ライフスキル	社会貢献	他人や社会に働きかけることができる
	共感力	他者の喜怒哀楽を理解し、自分の意思を表現できる
	寛容の精神	他人を理解し、受け入れることができる
	チャレンジ精神	困難なことに挑戦することができる
	自己管理能力	メンタルなストレスに対応できる

こうした自己評価の基準を設定することで、教育目標が明確になり、「品質」を対外的に保証する基準にもなる。

平成21年度

第1回 FSD講演会 平成22年1月25日(月)
午後4時00分から午後5時00分まで

開催場所：2号館地下 階02教室

「TIESの歩みとe能力ポートフォリオ」

講演者

中嶋航一氏

(帝塚山大学経済学部教授)

教育開発支援センターでは「学部(学科)・教学機関支援」、「教職員支援」、「学生の学修支援」を通じて教育改革を推進していますが、その一環として、教職員対象のFSD講演会を実施しました。帝塚山大学経済学部の中嶋航一教授をお招きし、2004年度特色G.P.(学生の自立性を高める教育学習支援システム)にも採択されたネットワーク型教育システムTIES(タイズ)のこれまでの取り組みと「e能力ポートフォリオ」についてご講演いただきました。



平成21年度

特別企画① S.D(F.D)講演会 平成21年12月12日(土)
午後1時30分から午後4時30分まで

開催場所：本館3階会議室

「大学職員が学生とよい関係を築くスキルを学ぶ」

講演者

水谷朋子氏

(財)生涯学習開発財団 認定プロフェッショナルコーチ

(財)関西カウンセリングセンター 認定 上級心理臨床カウンセラー

(財)生涯学習開発財団 認定プロフェッショナルコーチなどの資格を持つ水谷朋子氏をお招きし、学生に対する「コーチング」の重要性、学生に信頼される大学職員に必要とされるスキルとその獲得の仕方等について講演をしていただきました。



FSDワークショップ(平成21年度後期)

今回のFSDワークショップでは、ポートフォリオ活用の狙いと意義とともに、実施に向けたポートフォリオの今後の課題についての検討を行いました。ワークショップの最後には、学部・学科間で具体的な運用について全体発表を行い、各学部での主体的なポートフォリオの運用方法を検討するなど実施に向けた実践的なワークショップとなりました。

【テーマ】

平成22年度から導入予定のポートフォリオについての理解を深め、問題点を共有し、円滑な運用を目指す。

【実施概要】

一、開催日時：平成22年3月9日(火)

午前10時から午後5時まで

二、開催場所：5号館

三、対象者：

教員 学部長・学科長が選ぶ専任教員(3〜4名)・

教育開発支援センター所員全員

職員 教務課長、キャリアセンター課長、学生課長を含む

ポートフォリオへの理解を深めたい職員

四、内 容：

①教育開発支援センター所長からの挨拶と本ワークショップの趣旨について説明

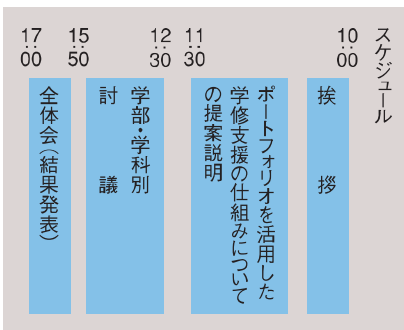
②ポートフォリオを活用した学修支援の仕組みについての提案説明

③学部・学科別討議

各学部・学科に分かれて行われた検討結果について、結果発表のプレゼンテーション

④全体会

各学部・学科に分かれて行われた検討結果について、結果発表のプレゼンテーション



大阪学院大学と箕面市教育センターの連携

これまで、箕面市の教員を対象とした夏期の情報教育研修を実施してきました。今回は、本学の教育開発支援センター所長と箕面市教育センターの所長との対談を企画しました。

白川所長 松山先生、よろしく願います。まず、箕面市教育センターの研修ビジョンについてお聞かせください。

松山所長 箕面市の重点方策として、子どもたちの豊かな『育ち』と確かな『学び』のサポートをするために、教師力・学校力向上の支援に力を入れ、課題や職務に応じた研修の充実を目指しています。

白川所長 学校力向上といえば、箕面市では小・中一貫教育にも取り組まれていますね。私も、この三月にパワーポイントの研修を「とどろみの森学園」で実施してもらいまして、先生方、授業改革に取り組む熱心な態度がとても印象的でした。

松山所長 はい。「とどろみの森学園」は文部科学省の研究開発学校の指定を受け、小・中一貫教育に力を入れています。夏季休暇中の情報教育研修とともに、今後ともよろしく願います。

白川所長 箕面市教育センターとの連携協力に基づく情報教育研修が始まって随分と経ちますね。

松山所長 もう今年で、八年目を迎えます。今年から箕面市内の学校では、オープンオフィスに移行します。新たな気持ちで夏期研修を企画しています。是非、今年もよろしく願います。

白川所長 これまで、ワード、エクセルの授業や校務での活用など情報教育研修を教育センターと協働で行ってきましたね。これからも大学

での情報教育のノウハウを活用して、箕面市内の先生方のニーズに応じた研修の



箕面市教育センターでの研修の様子



箕面市教育センター

〒562-0036箕面市船場西3-8-22 Tel.072-727-5112
educenter@maple.city.minoh.lg.jp

進学説明会(教員対象)開催日程

開催日	開催地	会場 および 所在地
5月19日(水)	京 都	ホテルグランヴィア京都 京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR京都駅中央口 tel.(075) 344-8888
5月20日(木)	神 戸	オリエンタルホテル 神戸市中央区京町25 tel.(078) 326-1500
5月25日(火)	高 松	全日空ホテルクレメント高松 高松市浜ノ町1-1 tel.(087) 811-1111
5月26日(水)	大阪北	ホテル阪急インターナショナル 大阪市北区茶屋町19-19 tel.(06) 6377-2100
5月28日(金)	大阪南	天王寺都ホテル 大阪市阿倍野区松崎町1-2-8 tel.(06) 6628-3200

14:30 受付開始

15:00 開会・挨拶

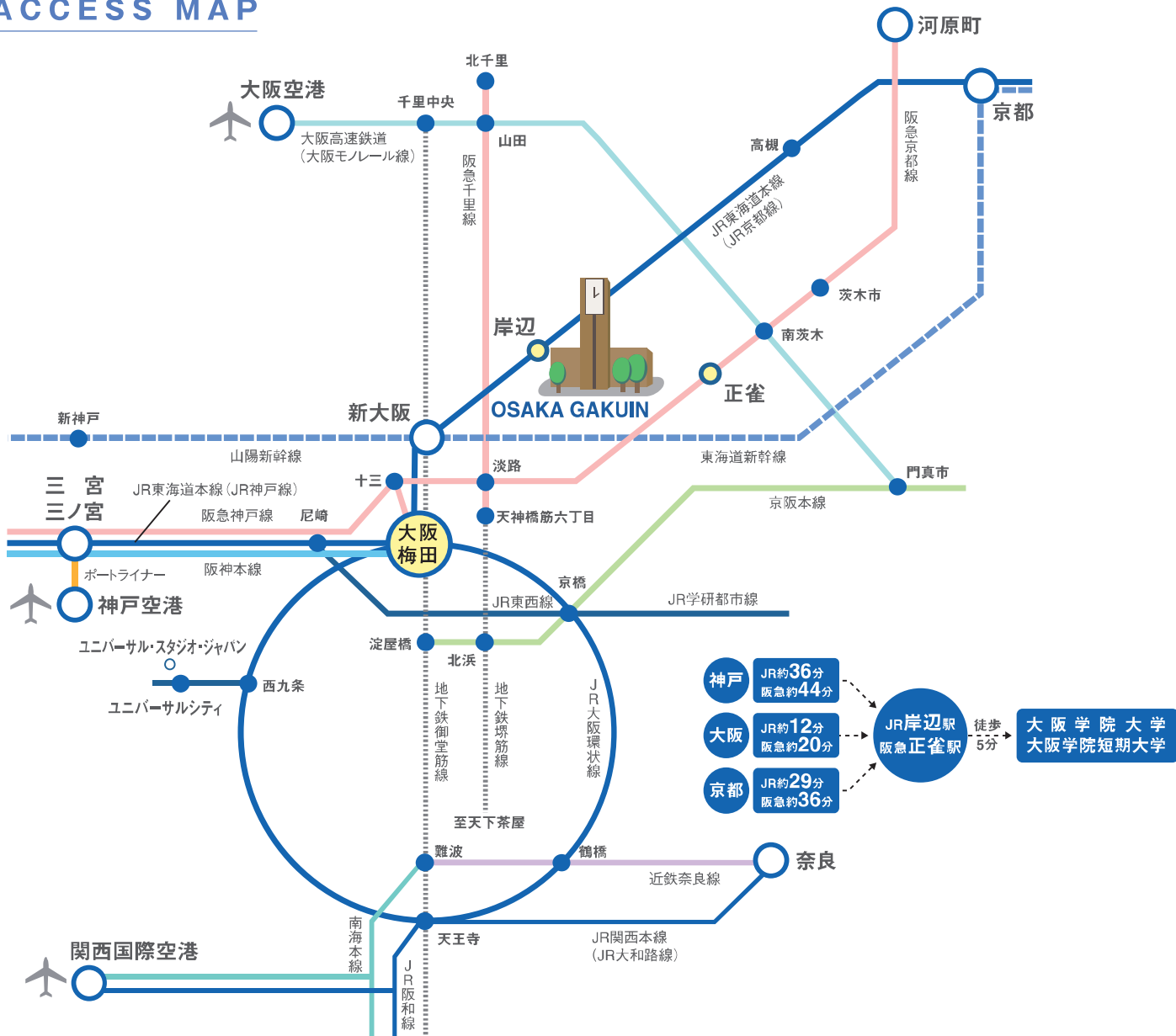
本学の教育改善 ポートフォリオについて
平成23年度入学試験変更点および
学費減免制度等について

個別相談

16:10 終了予定

問い合わせは、入試事務室まで
TEL(06) 6381-8434(代表)

ACCESS MAP



OPEN CAMPUS 2010

開催日時 7月24日(土)・25日(日)
8月22日(日)・29日(日)
9月12日(日)

開催時間 10:00~15:00
(※受付 9:30~)

事前申し込み
不要

開催内容

入試説明会、キャンパス見学ツアー、
学食ランチ体験、在学生とのフリートーク、
各種個別相談など



渺望 vol.5 2010年5月1日発行

編集/OGU教育開発支援センター事務局
発行/大阪学院大学・大阪学院短期大学

ご意見・ご感想をお寄せください。

お問い合わせ先 06-6381-8434 (代表)
edtc@ogu.ac.jp

「渺望」について

“ああ渺々と雲の果て……”と歌われる学院歌。そこには、学生の眼前に広がる社会や世界をより確かに望む学びを提供する大阪学院大学の教育への姿勢を歌っています。『渺望』というタイトルの一文字一文字には、常に学生の視線から学生一人ひとりの個性を伸ばし、能力を育む斬新な教育改革に取り組む本学の決意と、未来を展望し、自らの道を進む学生たちのいきいきとした姿を託しています。

大阪学院大学
大阪学院短期大学

●大学院/商学研究科・経済学研究科・国際学研究科・法学研究科・コンピュータサイエンス研究科・法務研究科(法科大学院)
●流通科学部/流通科学科●経営学部/経営学科●ホスピタリティ経営学科●経済学部/経済学科●法学部/法学科
●外国語学部/英語学科●国際学部/国際学科●情報学部/情報学科●企業情報学部/企業情報学科
●通信教育部(流通科学部流通科学科)
大阪学院短期大学(女子)●経営実務科
〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号 TEL (06) 6381-8434 (代表)
URL <http://www.osaka-gu.ac.jp>